**繁栄期の料亭、ホテル建築群**

19 世紀後半から 20 世紀初頭にかけて、北海道で最も豪華なレストランやホテルは小樽にありました。 1865 年に漁村として始まった小樽は世紀の変わり目までに人口約 6 万人の賑やかな港町へと急速に成長しました。

19世紀末までに小樽のニシン年間漁獲量は9万トン近くに達しました。ニシンが豊富に採れたことで漁師や商人は裕福になり、「ニシンのゴールドラッシュ」の恩恵にあずかろうと富を求める人々が町に殺到しました。ニシンの大部分は肥料に加工され、本州南西部で育つ綿花や藍の生産に必要とされました。

新たな富と余暇

新興の裕福な家族は京都や日本海沿岸の港から最高級の家具、ファッション、建築資材を輸入して、小樽に邸宅を建てました。小樽には富裕層向けのレストランや美術店が作られ、国内外からの商人を受け入れる旅館やホテルもオープンしました。

豪華なエンターテイメント

豪商、漁師、政治家、著名人をもてなすために高級レストランがオープンしました。輸入ガラスがはめ込まれた窓、ガス灯シャンデリア、エキゾチックな木から彫られた装飾品、そしてダンスや音楽リサイタルのための大きな宴会ホールやパフォーマンススペースが特徴でした。大正時代（1912年-1926年）には、約600人の芸妓がこれらの高級店で小樽の裕福な市民を楽しませていました。 20世紀半ばに経済が減速したためほとんどのレストランが閉店し、商家が移転しました。魁陽亭や光亭などいくつか残っている施設は改修のため閉鎖されているか、民間の施設として再利用されています。

魁陽亭は 1885 年から 1890 年にかけて堺町通り近くにオープンし、2015 年に閉店するまで商人、政治家、著名人をもてなしました。レストランは大正時代に拡張され、現在の建物は異なる時期に建てられた 3 つの棟がつながった構成になっています。光亭は東京の新宿区にある人気料亭の支店で1937 年に小樽の裕福な地区である東雲町にオープンしました。小樽の光亭は一見さんお断りで、芸妓のサービスを提供していました。畳敷きの宴会場とダンスや音楽のパフォーマンスが行われる檜敷きステージがありました。1950年代まで東雲町にはこのようなレストランが少なくとも5軒ありました。

豪華な宿泊施設

19世紀末と20世紀初頭に商人や外国貿易商が流入すると、ウォーターフロントや駅近くに旅館がオープンしました。現在アンワインドホテルとして営業している越中屋ホテルは小樽初の欧風ホテルです。小樽に来る海外貿易商や商人の増加に対応するために1931 年に建設されました。このホテルは近くにある 1877 年創業の伝統的な旅館、越中屋旅館の別館でした。この越中屋旅館は 1900 年代初頭から英語のガイドブックに掲載されていましたが、オーナーはモダンで豪華なホテルの方が海外からのゲストにとって魅力的だと考えていました。